

地方都市における歴史文化観光地域の成立背景とコロナ禍下の観光状況 —高山市・犬山市・佐世保市・倉敷市・日田市を事例に—



末田智樹 SUETA Tomoki

中部大学人文学部歴史地理学科教授

福岡県出身。岡山大学大学院文化科学研究科産業社会文化学専攻博士課程修了。博士（経済学・学術）。専門分野は経済史、商業経営史、歴史地理学。江戸期の豪商経営や捕鯨業史、百貨店の成立・発展史に関心があり、東海地方では松坂屋（伊藤次郎左衛門家）の研究に取り組んできた。主な著書に、『藩政捕鯨業の展開』（御茶の水書房、2004年）、『日本百貨店業成立史』（ミネルヴァ書房、2010年）、『老舗百貨店の接客法』（風媒社、2019年）がある。

ABSTRACT

In this project, first, for Takayama City, we conducted a survey on the tourism situation under the Covid-19 pandemic, focusing on the number of tourists, accommodation facilities, and traffic conditions. Secondly, in order to compare the tourism situation in Takayama City with that in Inuyama City, Aichi Prefecture, we conducted a survey of the Inuyama Castle Town (National Treasure Inuyama Castle). In addition, we conducted a field survey of the usage of the shopping arcade in Sasebo City, Nagasaki Prefecture, which is the longest straight arcade in Japan. Third, we investigated the background to the establishment of historical and cultural tourism areas in Kurashiki City, Okayama Prefecture, and Hita City, Oita Prefecture, which were under the same conditions (Tenryo: Imperial fief) as Takayama City during the Edo period, and surveyed the tourism situation under the Covid-19 pandemic.

1. はじめに

飛騨高山の持続可能な観光に関する研究プロジェクトでは、第1に、高山市についてはコロナ禍下の観光状況として観光客数や宿泊施設、交通事情などを中心に調査を進めた。第2に、高山市の観光状況と比較するために、愛知県犬山市の犬山城下町（国宝犬山城）と三重県伊勢市のおかげ横丁（伊勢神宮）、ならびに長崎県佐世保市において直線のアーケード街としては日本一の長さとなる商店街の利用状況を調査した。第3に、江戸期において高山市と同様に天領（幕府直轄地）であった岡山県倉敷市と大分県日田市の歴史文化観光地域の成立背景を調査し、コロナ禍下の観光状況を調査した。なお、佐世保市・倉敷市・日田市については、大幸財団2020年度第9回人文・社会科学系学術研究助成に採択されたために、これを使用した。本文での写真（図1～17）は、すべて筆者が撮影したものである。

2. COVID-19 流行による緊急事態宣言発令と高山市のコロナ禍下の観光状況

2019年（令和元）12月に中国湖北省武漢市で発生したCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）は、翌20年（令和2）3月上旬には世界中に拡大し、日本でも同年4月に緊急事態宣言が全国的に発令された。2021年（令和3）1月にも、一部の区域（1月8日からは東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、1月14日からは栃木県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県を追加対象）で再発令されたため、現在、観光業とそれに関連する飲食業の事業全体が非常に深刻な状態に陥っている。

このような状況下で深刻な打撃を受けたのが旅館業や飲食業に代表される観光業界であり、本

来 2020 年は観光業界にとって飛躍の年になるはずであった。なぜならば、政府が 2016 年（平成 28）3 月に策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」で、2020 年度の訪日外国人旅行者数 4,000 万人という目標を掲げ、各種施策を通じた観光振興を展開してきたからである。同年 7 月下旬には、1964 年以来 57 年ぶりとなる東京オリンピックの開催が予定され（1 年延期）、数多くのホテルが開業予定であった。



図 1. 2020 年 1 月 24 日高山市の賑わう商店街

このような中で、インバウンド需要の取り込みに成功したのが高山市である。岐阜県飛騨地方にある高山市は、古き良き日本の町並み（重伝建地区）や風景が残る歴史文化観光地域として外国人に人気が非常に高い観光地である。しかし、コロナ禍下の昨年の観光客数は前年比 51%減の 230 万 1,000 人で、2005 年（平成 17）の市町村合併以来、最低となった。外国人観光客宿泊者数は、10 万 8,720 人で同 82%減となった。どちらも、前年比で過去最大の下げ幅であった。月別の比較では、最初の緊急事態宣言が出され宿泊施設の休業が相次いだ 5 月が 97%減、4 月が 92%減と落ち込みが非常に大きく、次いで 7 月がコロナ禍の影響と飛騨地方を中心に記録的な大雨の被害を受け、交通面で主要道路が寸断されたことも響き 69%減であった。1 月の外国人観光客宿泊者数は約 6 万人であったが（図 1）、海外からの入国制限措置に伴い、4 月以降は各月 1,000 人未満に激減した。本市に関しては、昨年度同様、歴史地理学科 3 年次の古川穂高君と調査を行った。

3. 愛知県犬山市の犬山城下町と長崎県佐世保市の商店街におけるコロナ禍下の観光状況

犬山城下町と国宝犬山城（図 2）については、2020 年（令和 2）11 月 22 日（日）に、歴史地理学科（犬山野外学習）の 1 年次学生 24 名ならびに小林博行教員と調査を行った。なお、三重県伊勢市のおかげ横丁（伊勢神宮）については、同学科の 2 年次地理学野外実習・同研究において受講学生が担当したため、以下は犬山市と佐世保市に関して述べておく。



図 2. 国宝犬山城



図 3. 犬山城下町の観光客（その 1）

犬山市は愛知県北部に位置し、人口約 7 万 3,000 人で県内では決して多くはない。しかし、愛知県内では名古屋市とともに国際会議観光都市に認定され、今日では県内屈指の歴史文化観光地域である。江戸期に城下町として栄えた背景には、商人や職人の同業者を住まわせて町の発展を促したことがあった。これは、鍛冶屋町・魚屋町・鵜飼町等の町名に名残がみられる。9 代城主

成瀬正肥が慶応4年（1868）1月に太政官から藩屏に加えられ、犬山藩が誕生した。



図4. 犬山城下町の観光客（その2）



図5. 待ち時間の案内板

11月には、政府によるGo Toキャンペーンと重なって、従来のようにあらゆる世代の観光客の姿を確認できた。また、犬山市観光協会などによる観光客への対応や特定の飲食店での行列（図3・4）、犬山城の観覧では人数制限が行われ、「待ち時間」の案内板が出ていたことも確認できた（図5）。



図6. 佐世保市の四ヶ町商店街



図7. 佐世保市の三ヶ町商店街

次の佐世保市は、江戸期の農漁村から明治期に入り海軍の鎮守府が設置され、それ以後は造船および軍港の町として発展した長崎県北部の中心的地方都市である。同県では長崎市に次いで2番目、九州地方では10番目に多い人口（2020年度）を擁し、中核市・保健所政令市の指定を受け、海上自衛隊佐世保基地および在日米海軍佐世保基地が所在し、西日本の海上防衛の重要な拠点となっている。そして、ハウステンボス等も有する国際色豊かな観光都市として知られている。



図8. セールの立て看板



図9. 三ヶ町商店街の買い物客

佐世保市の四ヶ町商店街は全長 516m で（図 6）、アーケードが連続して直線で繋がっている三ヶ町商店街の全長 398m と併せると（図 7）、直線のアーケード街としては日本一の長さを誇る。その両商店街を、2020 年 12 月 18 日（金）の夕方に現地調査を行った。四ヶ町商店街では、参加店で買い物によってシール 5 枚（1,000 円毎 1 枚）を集めて、豪華景品が当たるクリスマスセールが開催されていた（図 8）。調査は夕方の時間帯であったが、若い世代の観光客がみられたほか、スーパー・食料品系商店において外国人市民を含む買い物客を確認できた（図 9）。

4. 岡山県倉敷市の歴史文化的背景とコロナ禍下の観光状況

岡山県南部に位置する倉敷市は、1979 年（昭和 54）に重伝建地区として選定された「倉敷川畔伝統的建造物群保存地区」（図 10）に白壁の町並みが残る倉敷美観地区や、瀬戸大橋などで知られる。中国・四国地方では、4 番目に多い人口（2020 年度）を擁した中核市・保健所政令市である。

江戸期の倉敷村は 1721 年（享保 6）に幕府直轄地になり、以後明治維新まで続いた。1746 年（延享 3）に倉敷代官陣屋が完成し、それは現在の倉敷アイビースクエアが立地する一帯に置かれた。天領として栄えた倉敷は、明治維新により米と綿の単なる集積地と化し、一時発展から取り残された。近代産業の先駆けとして 1881 年（明治 14）に玉島紡績所、翌 82 年（同 15）に下村紡績が誕生し、大原孝四郎らによって 1888 年（同 21）代官所跡に倉敷紡績所（クラボウ）が創設された。孝四郎の次男孫三郎は倉敷紡績社長として活躍し、かつ地域の歴史文化と福祉の向上に大きな足跡を残した。



図 10. 倉敷川畔伝統的建造物群保存地区



図 11. 倉敷美観地区の観光客（その 1）



図 12. 倉敷美観地区の観光客（その 2）



図 13. 倉敷えびす通商店街

2021 年（令和 3）1 月 16（土）に倉敷美観地区の現地調査を行った。若い世代を中心に 2～4 人のグループの観光客が数多くみられ、通常の団体客や海外からの観光客をほぼ確認することができなかった（図 11・12）。美観地区と隣接する倉敷駅前の商店街では、観光客以外の買い物客の姿はみえなく厳しい状況が窺えた（図 13）。同市の商店街と美観地区は隣接しているために、この地区に観光客が集中し、商店街は駅から美観地区への通過点に過ぎないように思われた。そのために、今後は商店街と美観地区との連携による観光振興策が重要となつてこよう。

5. 大分県日田市の歴史文化的背景とコロナ禍下の観光状況

大分県北西部に位置する日田市は福岡・熊本両県と県境を接し、人口は県内 5 番目である。江戸期は高山・倉敷両市と同様に天領で、倉敷市と同じく文化庁「日本遺産」に認定されている。今回は、2021 年（令和 3）2 月 21・22 日（土・日）に市内の豆田町と隈町（図 14）の現地調査を行った。



図 14. 隈町日田祇園山鉾会館



図 15. 国指定重要文化財・草野家住宅の案内板

両日は、本年度で第 38 回を迎える「天領日田おひなまつり」の最初の週末であった。豆田・隈両町は、九州随一といわれるほどの繁栄を支えた掛屋を中軸とする豪商が活躍した。

例えば、豆田町の豪商で「日田陣屋附」の掛屋の広瀬家は、1760 年（明和 6）に豊後の岡（竹田）・杵築・府内の 3 藩の御用達となり、その後に肥前の蓮池（佐賀支藩）・鹿島（同）や対馬藩、大村藩にまで及んでいる。さらに、6 代広瀬久兵衛から 7 代源兵衛の時に飛躍的に経営を拡大した。同家が、御用達・大名貸・献金等で扶持の関係を持った諸大名は九州の 34 藩のうち 20 藩で、関係を持たなかった大藩はわずかに佐賀・鹿児島 の 2 藩であった。



図 16. 豆田町の「ひな御殿」内の享保雛



図 17. 豆田町御幸通りの観光客

この町人文化が花開いた日田の旧家である広瀬家や草野家（図 15）には、京や大阪で買い求めた絢爛豪華なひな人形やひな道具の数々が今も残されている。おひなまつりの期間中は、豆田町や隈町の旧家や資料館で、ひな人形やひな道具を一斉に展示・公開している（図 16）。家族連れや若い世代の観光客はみられたが、通常の団体客や海外からの観光客をほぼ確認することができなかった（図 17）。また、とくに緊急事態措置区域である福岡県からの来訪が多かったことを、車のナンバーや資料館などの芳名帳からしっかりと確認できた。

6. おわりに

2 年目は初年度の高山市との比較も踏まえて、観光業に積極的な近隣の犬山市や同じ重伝建地区を持つ倉敷・日田両市等を調査した。3 年目は、高山市と近隣・類似の地方都市の観光状況を調査する。

主要参考文献

- ・ 犬山市教育委員会ほか編（1997）『犬山市史 通史編上 原始・古代、中世、近世』犬山市、844 頁。
- ・ 倉地克直・山本太郎・吉原睦（2011）『絵図で歩く倉敷のまち』吉備人出版、150 頁。
- ・ 高山市の去年の観光客は過去最低（NHK 東海のニュース）：2021 年 3 月 3 日（最終閲覧）
- ・ 高山の観光客数 51%減、昨年、230 万人（中日新聞 Web chunichi.co.jp）：2021 年 3 月 3 日（最終閲覧）
- ・ 日田市編（1990）『日田市史』日田市、914 頁。他。